

ルカによる福音書

(The Gospel According to Luke)

新約聖書の第 3 番目に位置する福音書で、マタイ福音書とマルコ福音書とともに共観福音書と呼ばれています。

4つの福音書の中ではイエスの生涯が最も詳しく述べられており、イエスと使徒の働きを通じて、御旨を実現する神を伝えています。またこの福音書は教理を重視していますが、とくに聖霊に関する教理を重視しています。さらに、病人、貧者、女性、子どもなど社会的弱者に対するイエスの働きに注目しており、愛が基調となっています。なお、この福音書の 2 部作として、使徒言行録があり、著者は異邦人伝道のパウロに同行した医師ルカで異邦人を対象として書かれたとされ、教養人の著者にふさわしく、語彙が豊かで立派なギリシャ語で書かれた福音書とされています。

執筆年代は諸説あり、紀元 60 年前後とする説や 70 年にエルサレムがローマに降伏した記事がありますので、おそらくはこの前後ではないかとする説などがあります。

(参照文献：ブリタニカ国際大百科事典電子辞書対応小項目版)

(参照文献：新改訳聖書 注解・索引・チェーン式引照付 いのちのことば社)

(参照文献：カラー 新聖書ガイドブック いのちのことば社)